

Kobe-Seattle Sister City Association

KSSCA

神戸ーシアトル姉妹都市協会

The NEWS Letter vol. 4

2006年6月

~~~~~ contents ~~~~~

- 神戸・シアトル姉妹都市協会設立1周年
- シアトルからクイーンたちが大集合
- シアトル情報サイト「Junglecity.com」をご存じですか？
- 日米子育てフォーラム参加者からのメッセージ
- シアトルからのゲスト、シルバーカレッジの皆さんと交流
- 神戸市シアトル事務所長が交代
- ホストファミリー登録受付
- 年会費振込みのお願い
- Special Thanks

## 神戸・シアトル姉妹都市協会設立 1 周年

神戸・シアトル姉妹都市協会は、今年の 2 月末で設立 1 周年を迎えました。おかげさまで、協会設立以来、法人、個人会員とも着実に増え続けています。

この 1 年の間には、シアトルから神戸を訪れるゲストだけでなく、神戸からシアトルを訪問する方々にも様々な情報を提供してきました。また、会員の皆さんにもご協力をいただき、2 回にわたる日米子育て交流フォーラムや、新開地生誕 100 年記念事業『神戸新開地ジャズ伝説』といった大きなイベントにも参加、協力するなど、神戸とシアトルを結ぶパイプ役として、様々な役割を果たしてきました。ホストファミリーの登録も開始し、シアトルからのゲストを神戸に迎え入れる体制もできつつあります。今後は、両市間の様々な分野での交流を推進するとともに、会員同士の交流会を深めるための機会も多く持ちたいと考えています。

また、来年は、神戸・シアトル姉妹都市提携 50 周年という節目の年になり、様々な記念事業が行われる予定です。当協会も、神戸市やシアトル側協会と協力しながら、様々なイベントに参加していく予定です。イベントについてアイデアをお持ちの方や、ぜひ参加してみたいという方がおられましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。たくさんの方々のご参加をお待ちしています。

今後とも神戸・シアトル姉妹都市協会の発展のために、皆様のご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

### ～ あなたの姉妹都市交流体験を教えてください！ ～

当協会では、来年の神戸・シアトル姉妹都市提携 50 周年にちなんで、皆さんの姉妹都市交流体験を募集しています。神戸とシアトルの交流に関するものであれば、どんな体験でもかまいません。お寄せいただいた皆さんの体験をまとめて、姉妹都市 50 周年記念特集号に掲載させていただきますので、写真などもあればぜひ一緒に事務局宛にお送りください。お待ちしております！

## シアトルからクイーンたちが大集合

### ☆ 神戸ジャズヴォーカルクイーンコンテストにシアトルの歌姫がゲスト参加

昨年10月、新開地生誕100周年と震災復興10周年を記念して開催された『神戸新開地ジャズ伝説』に参加するため、初めてシアトルから女性ジャズヴォーカリスト2人(第1回シアトル女性ジャズヴォーカリストコンテストのグランプリ受賞者)が神戸を訪れ、歌声を披露しました。

今年も3月27日にシアトルの老舗ライブハウス・ジャズアレイで、第2回シアトル女性ジャズヴォーカリストの選考会が開催され、多数の応募者の中から、ゲイル・ペティスさん(一般の部)とコートニー・フォーチュンさん(高校生の部)の2人がグランプリを受賞されました。

このお2人がさっそく神戸を訪れ、5月7日(日)、新開地アートビレッジで開催された『第7回神戸ジャズヴォーカルクイーンコンテスト』のゲストとして出演し、神戸市民に歌声を披露されました。

また、今回神戸ジャズヴォーカルクイーンに選ばれたMAMIさんは、9月11日にシアトル・ジャズアレイでコンサートを行う予定です。

(神戸ジャズヴォーカルクイーンコンテスト  
で歌声を披露するゲイル・ペティスさん(写真上)  
とコートニー・フォーチュンさん(同下))



### ☆ シアトル日系コミュニティクイーンが神戸まつりに参加

シアトル日系コミュニティクイーンが神戸まつりに参加することは毎年の恒例となっていますが、今年サラ・マツモトさんが来神され、5月13日(土)に行われた神戸まつりのパレードに参加されました。

当日は、残念ながらあいにくの雨模様となりましたが、矢田市長と一緒にオープンカーに乗車し、沿道の神戸市民の声援に笑顔でこたえました。



## シアトル情報サイト「Junglecit.com」をご存じですか？

皆さんは「Junglecit.com」(<http://www.junglecit.com/>)というサイトをご存じですか？

シアトルの観光情報やニュース、エリアガイド、マリナーズ情報など、シアトルの各種情報を検索するためにこのサイトを利用したことのある方は多いのではないのでしょうか。

このシアトル情報ポータルサイト「Junglecit.com」を運営する Junglecit Network, Inc. (株)ジャングルシティ・ネットワーク)の代表で、シアトル・神戸姉妹都市協会の役員もされている大野代表からメッセージをいただきましたので、ここでご紹介します。

---

私が生まれ育った神戸を離れて海外に出たのは、高校2年生だった1989年のことでした。きっかけは、2年生になって進路を決める必要が生じた時、「このまま日本の大学に入学し、卒業して就職すること」に実感が持てなかったこと、自分の行き先は他にあるように思えたことだったと思います。そして父の助言もあって1年にわたってオーストラリアの高校に留学し、その後に半年ほど日本に住んでから、ワシントン州シアトル市の大学に留学しました。今年で人生のちょうど半分を海外で過ごしたことになります。

大学卒業後にはそのまま大学院に進学して卒業し、自転車業界で就職しました。シアトルはサイクリングが盛んなことで全米に知られていますが、私自身はこの仕事をきっかけにそれを知ったぐらい、自転車に興味を持っていませんでした。仕事は、業界のトップレベルの人たちとのやり取りや全米各地のトレード・ショーへの参加など、シアトルの自転車好きの友人には、「dream job」と言われたぐらいでもおもしろかったです。しかし、1年ほどたったころから、業界の人たちが自転車好きであるにも関わらず、自分が自転車に興味を持ってないことが重荷になってきました。そして、いろいろと悩んだ末、「どうせ毎日やるのなら、自分が本当にしたいこと、自分が本当に好きなことを仕事にするべきだ」という結論にたどり着いたのです。好き嫌いが激しい私の性格では、好きになろうと努力したり、好きではないことを割り切って毎日続けることは、かなり難しいものなのです。それは今でも変わりません。

それからは、では自分がいったい何が好きなのかを考えるようになりました。その頃は頻繁に出張していたこともあり、シアトルのすばらしさを実感する機会に恵まれました。シアトルに限らず、そこを訪れた人全員がその場所を好きになることはありません。でもそれは私にとっては関係のないことで、私自身はシアトルが好きでたまらなくなりました。時は1997年、シアトルは東京やニューヨークと比べることはできない田舎町で、神戸と比べても見どころの少ないところでした。マリナーズに日本人選手が入団するなど考えられず、カフェ・カルチャーもまだ熱くなく、シアトルしか知らないまま「井の中の蛙」のように「シアトルはいいところだ」と言っているような節がありました。ですから日本人からの注目もなく、アメリカでも地域情報の日本語サイトは日本在住者の多いカリフォルニア州に1つ存在したぐらいで、シアトルには個人がやっている「ホームページ」程度のものしかありませんでした。私は仕事の一環で簡単なウェブサイトを作る仕事もしていたので、「では自分の大好きなシアトルのPRを自分の仕事にしよう」と思い立ち、1998年9月にとっても単純に自分のウェブサイト構築会社を設立し、シアトルのウェブサイトを1人で作り始めました。思い描いていた構造を形にしていだけでしたが、1人で3ヶ月かかりました。そして1998年11月8日、シアトル日本語ポータルサイト、Junglecit.com

の公開に至ったのです。

始めのころは広告営業に行っても "親会社" がないという理由で断られるなど、少し辛いこともありましたが、今年で設立 8 周年を迎えました。会社としても成長し、信頼できる社員がおり、たくさんの顧客がつき、安定していると言えます。Junglecit.com もとても大きく成長し、シアトル随一の情報サイトとして、シアトル在住はもちろん、世界中の日本人（そして日本語を読める人）にご利用いただくようになっています。毎朝の地域ニュースのチェックが日課となっているシアトル在住の人もいれば、留学や旅行をする前から、または留学や旅行を終えてから見ている人もいます。子供が留学しているから見ている人、これから駐在するので見ている人、来たばかりで勝手がわからないから、友達を作りたいから、掲示板で中古品を売買したいからなど、その利用方法はさまざま。これからもシアトルを代表するサイトとして、成長を続けていくことができるように、引き続き努力していくつもりです。

まだ神戸からシアトルに来たことがない方も、シアトルに来たことがある方も、ぜひ Junglecit.com で新鮮なシアトル情報をご覧ください。今後ともよろしく願いいたします。

大野 拓未 (おおの・たくみ)

## 日米子育てフォーラム参加者からのメッセージ

昨年 11 月 27 日、流通科学大学で行われた『震災 10 年 神戸からの発信 日米子育てフォーラム in Kobe(Part2)』にシアトルから参加された幼稚園教員、Carol Anderson さんからメッセージが届きましたのでご紹介します。

今後も日米の子育て、教育関係者の交流を深め、子供たちをより豊かな環境の中で健やかに育てていけるよう意見交換を続けていければいいですね。

---

The Japan-U.S. Childcare Forum held in Kobe on November 27, 2005 was a wonderful opportunity for the sharing of ideas between Japan and the United States on the importance of communication in early childhood education. There were a number of participants from both countries who shared ideas and experiences both with each other and with the parents who were in attendance.

The forum began with a wonderful Japanese Drum Performance by the UMDS students. It was a great way to begin the day and gained the attention of all who were in the auditorium. During the opening address that followed, reference was made to the 10<sup>th</sup> anniversary of the Kobe Earthquake, a reminder of a powerful event in the lives of many who were there. The address also focused on the importance of bonds that start with the relationship of child to parent as well as the need to share emotions, interests, and values. Also expressed was the desire for an international perspective. This led to a major reason for the forum which was to further enhance the communication between the United States and Japan.

As both an educator and a parent, I learned a great deal from the Japanese presenters. Similar to the United States, child rearing has changed from the Japan of years ago. The presenters shared that, with more mothers working outside of the home, child care is playing a more major role. Nursery schools are extended to longer days and include week-ends. Mothers worry over child-care and become mentally stressed. There are waiting lists for some nursery schools. Efforts appear to not be keeping up with the situation. When there are lectures on child care issues, the halls are packed. Children with problems are increasing.

All of the above concerns that were expressed by the Japanese presenters can be found in the United States as well. A difference might be that the importance of communication between the parents and the schools and between the parents themselves has become a major part of child-care in the United States.

Later in the morning, we heard another Japanese presenter express the need to build an awareness of different cultures and to value the traditions of Japan for future generations. Children must show respect for their elders. Each child should be treasured. Dignity is important. A strong foundation must be built between a child and a parent.

As I sat taking notes on these ideas, I found myself appreciating hearing them. I believe they are ones that should be found in any culture. Just as in Japan, we need to focus more on these in the United States.

The morning session of the forum ended with a beautiful performance by children singing "To Bring Happiness". It was one of the best parts of the day for many who were there.

During the afternoon portion of the forum, I had the honor of being part of a panel from Japan and the United States discussing problem solving in childcare. Ideas were expressed by members of the panel, along with participation from the audience. It was another wonderful opportunity for sharing information.

In closing, I would like to say that from what I could see, the forum was a great success. It was well attended, and the participants from both Japan and the United States gained a greater understanding of the status of childcare in both countries. The sharing and exchanging of facts and ideas was invaluable.

I have since shared my experience with many teachers and parents in Seattle. I shall always be grateful for the opportunity to have been able to spend time with the gracious people I met in Japan. I have a great many pictures and precious memories of the children who shared some of their time with me at the preschools and kindergarten we visited. I appreciate so much the time and effort put forth by the Kobe Executive Committee, the Maiko International Preschool, and the Kobe-Seattle Sister City Association in putting on the forum. I know that the participants from the United States left with a wonderful impression of Japanese hospitality.

## シアトルからのゲスト、シルバーカレッジの皆さんと交流

シアトルから神戸を訪れていた Sharon Victor さんと Tom Crisalli さんご夫妻を招いて、6月13日(火)、神戸市シルバーカレッジ国際交流協力コースの皆さんとの交流会が催されました。

昨年秋にスタディツアーでシアトルを訪問した方が多かったためか、懐かしいシアトルの思い出や、互いの姉妹都市への想いなど話は尽きない様子で、しばしば食事も忘れて話し込む場面もありました。

今年の秋にもシアトルへのスタディツアーが予定されており、参加予定者は「今度はシアトルで」と、Sharon さんたちとの再会を約束していました。



(Sharon さん、Tom さん (前列中央) とシルバーカレッジの皆さん)

## 神戸市シアトル事務所長が交代

神戸市は姉妹都市であるシアトル市との友好親善及び経済交流事業の拠点として、45年前に神戸市シアトル事務所を設立しました。以来、シアトル事務所は姉妹都市交流をはじめ、神戸のシティセールスの窓口の役割を果たしています。

このたびシアトル事務所では、山本猛所長が3年の任期を終えて帰任され、代わって植松賢治所長が新所長として就任されました。そこで、山本元所長と植松新所長からそれぞれコメントをいただきましたのでご紹介します。

---

2006年4月、3年間のシアトル事務所長の任期を終え、神戸に帰国しました。

3年間、神戸の企業誘致、客船誘致、観光誘致など、神戸のシティセールスで、アメリカ各地を飛び回ったのがいい思い出です。

またシアトルでは、シアトル・神戸姉妹都市委員会（カーリン・ザーグ代表）のメンバーをはじめ、たくさんの方と出会い、多くの方に神戸のファンになっていただきました。



(左から現ローカルスタッフの Devin さん、山本所長、前ローカルスタッフの Sandy さん)

神戸に戻ってちょうど 2 ヶ月、日本での生活に予想以上に (?) なじんでしまい、シアトルに住んでいたのがはるか昔のように思える毎日ですが、たまにテレビで見るマリナーズの試合でシアトルをなつかしく思いだしています。

来年は姉妹都市 50 周年、今まで以上に人と人の交流、まちとまちの交流が進み、神戸とシアトルが日本とアメリカでもっとも住んでみたいまちになればいいなと思っています。

(山本 猛)

この度の異動で、シアトル事務所長に赴任いたしました植松です。神戸で生まれ、育ち、学び、仕事も神戸ということで、初めて神戸市以外で生活するところがシアトルになります。

なにぶん、なれないことが多いかとは思いますが、神戸の産業振興及び観光の PR、また両市民の交流にお役に立つようがんばりたいと思っています。

来年は、姉妹都市 50 周年という大きな節目の年でもあります。このことをきっかけに、あらためて両市民の方々の新たな交流が生まれることと、広く北米地域において、さまざまな産業の窓口として神戸を知ってもらうことを目的にがんばりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

神戸・シアトル姉妹都市協会の皆様は、その大きなサポーターでありプレイヤーであると思っていますので、前任同様、よろしくご理解とご協力をお願いいたします。

私自身も、なんでも前向きに取り組みたいと思っていますので、お気軽にお声がけください。

(植松賢治)



(ローカルスタッフの Devin さんと植松所長)

## ホストファミリー登録受付

シアトル他、海外からのゲストを受け入れてくださるホストファミリーの登録を受け付けています。ホストファミリーとして、ゲストの受け入れに興味・関心がある方、また、内容や時期などによっては受け入れが可能な方も是非登録してください。登録していただいた方の中から、個々の条件に合いそうなゲストが来られたときに、直接ご連絡させていただきます。

登録を希望される方は、①「ホストファミリー登録」、②氏名・年齢（代表者だけで結構です）、③住所、④家族構成（性別、年齢もお書き添えください）、⑤最寄駅、⑥その他希望事項（受け入れ条件などの希望がありましたら必ず書いてください）をお書きいただき、FAXにて八木宛（(078)785-8205）にお送りください。皆様の登録をお待ちしています。

## 年会費振込みのお願い

当協会の活動は、設立主旨に賛同された会員の方々のご協力、ご支援によって運営しています。本年度においても、以下のとおり引き続き活動に賛同していただける会員の方々のご協力をお願いいたします。

- ◆ 学生会員（18歳以下） 1,000円/1口      ◆ 個人会員 3,000円/1口
- ◆ 法人会員 20,000円/1口

なお、振込先などについてのお問い合わせは事務局までお願いします。

### **A Big THANK YOU To Our Corporate Sponsors!**

（順不同）

#### **オルカ・インターナショナル(株)**

<http://www.orca-international.com/jp/>

#### **神戸国際協力交流センター（KICC）**

<http://www.kicc.jp/>

#### **日本食文化環境研究所（Food Approach）**

<http://foodapproach.com/index.htm>

#### **COSTCO（コストコ ホールセール ジャパン 株式会社）**

<http://www.costco.co.jp/>

#### **株式会社 神戸ポートピアホテル**

<http://www.portopia.co.jp/>

## 法人会員COSTCO様からのメッセージ

Seattle, Washington is the sister-city of Kobe, Japan and the home of Costco Wholesale, an international chain of membership warehouses. Costco stores, or warehouses, sell high quality, national and internationally branded merchandise at low prices to businesses (Business Members) purchasing for commercial use, or resale, and also to individuals (Gold Star Members).

Our Company's business is based upon achieving high sales volume and rapid inventory turnover by offering a limited assortment of merchandise across a wide variety of product categories at very low prices. While the majority of products appeal directly to various types of small to medium sized businesses including restaurants, offices and day care centers, many of the products are also very popular with our individual members.

Food product categories include fresh meat, fish, bakery and produce departments, along with a wide selection ambient, chilled and frozen foods. Our non-food range includes housewares, apparel, electronics, tires, office supplies and furniture and an assortment of fine jewelry.

We currently operate a total of 471 warehouses in seven countries including 346 locations in the U.S. and Puerto Rico, 66 locations in Canada, 17 in the United Kingdom, Five in Korea, four in Taiwan, 28 in Mexico and five in Japan.

We opened our first location in Japan just outside Fukaoca in Hisyama (April of 1999). We then opened in Makuhari (December 2000), Tamaskai (September 2002), Amagasaki (April 2003) followed by Kanasawa of Sea Side (October 2004).

We are pleased with the progress of our business in Japan and very encouraged by the positive reception and support we have received from our members across the country, many of whom have shopped with us for many years in North America.

We look forward in the years ahead to our continued growth and expansion in Japan, which will hopefully one day include a location in our beautiful sister-city of Kobe.

# 神戸ーシアトル姉妹都市協会

## Kobe-Seattle Sister City Association

(代表者) 八木 絵里  
(連絡先) 〒655-0007 神戸市垂水区多聞台1丁目10-20-507  
Tel/Fax (078)785-8205  
(ホームページ) <http://kssca.net>

### 【活動内容】

当協会は草の根交流のサポート、推進を行うための団体として、以下のような活動を中心に行っていきます。

- ①会報誌の発行
- ②交流会の実施
  - ・姉妹都市協会会員やシアトルから来神している人を対象とした交流会やイベント等の開催
- ③国際交流事業の実施・サポート
  - ・神戸市の事業への協力や各種交流プログラムのサポート
  - ・シアトルー神戸姉妹都市協会（シアトル側協会）との連携・交流（姉妹都市提携50周年に向けた活動を予定）

※ この他にも今後様々な活動を行っていく予定です。

### 【年会費】

学生会員 1,000円（18歳以下）／1口  
個人会員 3,000円／1口      法人会員 20,000円／1口

当協会の活動は、設立主旨に賛同された会員の方々のご協力、ご支援により運営してまいります。

上記の他にも、当協会の活動内容にご賛同いただける方のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

当協会会員にお申し込みいただける方は、以下の様式に必要事項を記入のうえ、事務局代表八木宛に Fax をお送りください。後日、会費の振込先をご連絡させていただきます。

住 所 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_  
Tel/Fax \_\_\_\_\_  
E-Mail \_\_\_\_\_

(神戸ーシアトル姉妹都市協会事務局)

代 表：八木 絵里  
神木 与治、合田 康夫、芳賀 雄彦、  
牧田 映子、和田 千佳